

今年是国内最後の内戦「西南の役」が終結し、西郷隆盛が没して一四〇年の節目の年です。

今回は「犬」と、隼人歴史民俗資料

# 西郷隆盛と霧島 その⑫

## 西郷隆盛が残した逸話「犬と火縄銃」

館に展示（二月十四日まで）されている西郷の「火縄銃」について紹介します。

### 帰郷後の憩い

明治元（一八六八）年九月に戊辰戦争が終結すると、西郷は同年十一月に鹿児島へ帰郷します。翌年一月に薩摩藩士の伊地知正治が久保利通に宛てた手紙には、次のように書かれています。

「西郷入道先生もすでに四・五十日、日当山湯治、犬四〜五匹、<sup>※1</sup>壮士三〜四人<sup>※2</sup>同道の由」

手紙では一月の時点ですでに四・五



大庭定次郎氏が西郷からもらい受けた火縄銃と火薬入れ（写真右下）

十日滞在していることから、帰郷後すぐに日当山を訪れて静養していたことが分かります。また入道先生と呼ばれていることから、断髪して坊主頭になっていたことが分かります。日当山で温泉に入っていた西郷をお坊さんと間違ったという逸話も残っているほどです。

明治政府の参議兼近衛都督であつ

た西郷は、明治六（一八七三）年、職を辞し鹿児島に帰郷。その後、県内各地の温泉に通い狩猟にいそしんでいました。一説では明治政府からの監視や謀反の疑いをそらすためともいわれています。

薩摩藩の立て直しに始まり、倒幕から明治維新期の礎を築くため東奔西走した西郷。本当は心身共に疲れた体を癒やすため、好きな狩猟と温泉を楽しんでいたのではないのでしょうか。

### 犬好きの西郷どん

西郷は無類の犬好きで、多いときは十匹以上も飼っていたといわれています。西南の役にも犬を二匹連れて行き、戦いの合間でも犬を連れて狩りに出掛けたという逸話も残っています。

西郷は賢い犬を見ると無性に欲しがり、国分敷根の大庭薫さん宅には、犬と交換した火縄銃と、次のような逸話が残っています。

「西郷さんは国分にも何度か狩りに来ており、代々、藩の医家だった敷根郷の大庭家も宿泊所の一つでした。曾祖父の定次郎は狩猟の名犬をそろえていて、自身の墓石には犬の彫刻を施してあるほどです。西郷さんは『おはんの犬を譲ってくれんか』と、曾祖父の犬にほれ込んだそうですが、そこでどんな話が交わされたかは分かりません。

曾祖父も西郷さんの執念に根負けしたらしく、とうとう譲ることになりました。この火縄銃は西郷さんが犬のお礼として曾祖父に贈ったものだそうです」

### 心優しい西郷どん

大庭家に残る逸話は、明治八（一八七五）年九月五日に西郷が川畑彦四郎に宛てた手紙からもうかがい知ることが出来ます。

「（中略）黒犬の方を相願いたく、子列れ居り候へば、子犬は御願い申し上げて置き候て、乳相離し候節御帰し申し上げ候様仕りたく御座候に付き、右の処を以て御相談成し下されたく、（中略）鉄砲一挺、右の御札として進上いたしく御座候に付き、…」

大庭氏の犬を譲り受けたときのお礼と、犬の親子を離すのはかわいそうなので、乳離れるまで一緒に過ごさせようと提案し、お礼として火縄銃を進呈する旨の内容となっています。

西郷の子犬に対する心遣いや、優しい人柄がにじみ出ている資料となっています。

（文責＝鈴）

※1 従事者のこと。

※2 同行すること。

※3 閣僚を指導する役職。

※4 天皇直轄の軍の総指揮官。

※5 詳細不明。おそらく国分出身の士族と思われる。